

CONTENTS

1. 全国一斉海浜清掃旗揚げ式（北海道厚岸町） _____ 1
2. 環境・生態系維持・保全活動等調査事業 _____ 3
 - ①令和4年度海浜等清掃活動実施調査報告 _____ 3
 - ②令和4年度漁民の森づくり活動等調査 _____ 6
3. 海と渚クリーンアップ活動（海浜清掃活動）報告 _____ 9

<http://www.umitonagisa.or.jp>

公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構

発行者 公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24 湯島ペアービル7F
TEL 03-5800-0130 FAX 03-5800-0131
E-mail info@umitonagisa.or.jp

X (Twitter) /umitonagisa
お願ひします



1. 令和5年度 全国一斉海浜清掃旗揚げ式

日 時：令和5年5月13日午前9時30分～12時

場 所：北海道厚岸町バラサン岬

主催者：厚岸町水質汚濁防止対策協議会、北海道、(公財)海と渚環境美化・油濁対策機構他

令和5年度全国一斉海浜清掃旗揚げ式を北海道厚岸町で開催しました。今回は「厚岸湖・別寒辺牛湿原」が1993年にラムサール条約に登録されたことを契機に始まり、30回目の節目となる「厚岸町クリーン作戦」と合同で開催されました。清掃場所は北海道庁、水産庁、当機構が向かった「バラサン岬」の他、「別寒辺牛湿原」、根室本線（JR北海道）沿線、翌5/14は厚岸湖内及び海岸清掃、町内一斉清掃、5/26は浮き球等回収作業が行われ、参加者は合計350名程度でした。

旗揚げ式参加者は80名程度。厚岸町役場1階で若狭町長は「厚岸は1次産業の町、環境保全はとても重要」とあいさつ、水産庁諸貫課長は神谷長官のメッセージを代読し、戸川JR北海道釧路支社長が「花咲線は景色がきれいに乗っているだけで楽しい」と言われています。玄関口の厚岸が美しいということ

は鉄道にも観光のお客様にとってもありがたいことです。」と挨拶されました。当機構の坂本専務理事が環境美化宣言の後、清掃活動の注意点の説明を経て、車でバラサン岬に移動しました。

当日は晴天に恵まれ、気温15度を超え、朝方は風が吹いていましたが、時間とともに止み、ポカポカ陽



若狭 靖 厚岸町長





ごみ袋をもらって清掃活動に取り掛かる

気。用意した長袖は邪魔な程でした。後で聞いたら翌日は雨も降り肌寒く、厚岸としてはいつもの天気に戻ったようです。

バラサン岬は大きな岩石が飛び出ている、そのふもとに砂浜が形成された感じ。ネットによれば「バラサン」とはアイヌ語で「広い柵」のこのようで、飛び出た岩盤を地元の人々は柵と呼んだのだろうと思います。

ここは漂着ごみが多い場所と地元では言われているようです。実際に大きな流木が多いと感じました。漁網は砂に埋まっていますので、砂から引き出して回収しましたが、引き出せない漁網も存在しました。空き缶、ペットボトルもありましたが、これらは道路に近い方に多くあったので、漂着ごみというより、「ポイ捨て」ではないかと思っています。



バラサン岬の突き出た岩盤 バラサン(広い柵)の由来

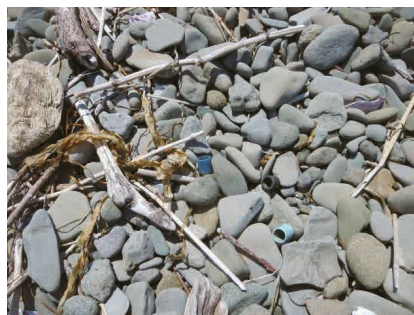
カキ養殖用の豆管も多く、カキは大事な産業だけど漂着ごみはなんとかならないかなと思うという参加者もいました。

集まったごみを見ると漁網は大きいので、やっぱり目立ちます。環境団体が漂着ごみの調査を行えば漂着ごみに占める漁網の割合は70%や90%と報告されるのだろうと容易に想像できました。一般に漂着ごみの70%以上を占めると言われる陸上起源の漂着ごみは軽いので、漂着と漂流を繰り返します。生活ごみのような再漂流する軽いごみと漁網のように海岸に堆積する重いごみの漂着量を比較するには海岸を徹底的にきれいにしてからでないと無理があると思いました。

清掃活動終了後、参加者で記念撮影を行い、解散しました。(福田)



ペットボトルや空き缶が多い場所
漂着ごみ?ポイ捨て?



カキ養殖で稚ガキを採取するのに使用する「豆管」と呼ばれる部材



漂着漁網
ごみ袋に入る大きさではなく重量もある



家族参加も見られた



回収したごみの一部



消波ブロックの中も回収する

2. 環境・生態系維持・保全活動等調査事業

① 令和4年度海浜等清掃活動状況調査報告 抜粋

平成9年度より行っている「海浜等清掃活動実施状況調査」の令和4年の報告書ができました。報告書の全文はホームページに掲載しています。<https://www.umitonagisa.or.jp>

【調査結果の概要】

「海浜等清掃活動実施状況調査」は、各都道府県に調査票を配布し、その回答を集計する方法で行っています。内陸県を含む全国47都道府県に調査票を配布しうち37都道府県から回答を頂きました。

1 活動回数及び活動場所

清掃活動を実施した月別の実施回数と割合は図1及び図2のとおりです。

令和4年は、全国で延べ16,935回(コロナ禍の令和2年度では10,982回、コロナ過中の令和3年度では11,588回)の清掃活動が行われました。特に5月、6月、7月の実施回数が多く全体の36.9%を占めています。また、5月から10月までの半年間で全体の64.7%を占めています。

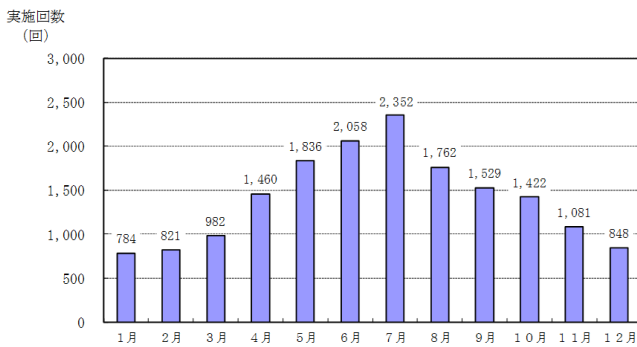


図1 月別実施回数

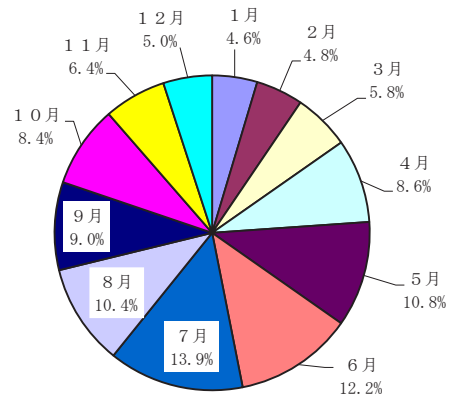


図2 月別実施回数の割合

2 清掃場所別の参加者数と清掃距離

清掃場所別の参加者を表1に、清掃実施場所別の参加者の割合を図3に、参加者1人あたりの清掃距離(延べ)を図4に示しました。

延べ参加人数は約61万人(コロナ禍直前の令和元年は92万人、コロナ過中の令和2年度では32万人)でした。参加者数を活動場所別にみると、海岸(約48万人)と河岸(約12万人)での活動が多く、この2つをあわせると全参加者数の約98%を占めました。

延べ清掃距離では、海岸が11,319km、河岸が1,203

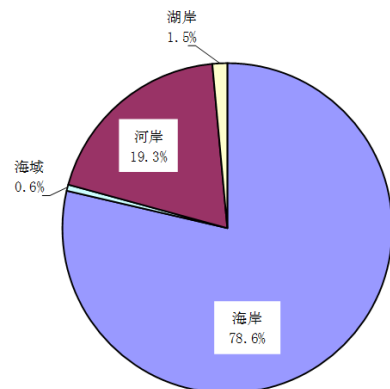


図3 清掃実施場所別の参加人数の割合

表1 清掃実施場所別の参加人数

		全体	海岸	海域	河岸	湖岸	湖域
清掃人数(人)		606,926	476,772	3,712	116,983	8,828	631
清掃距離	延べ距離(km)	12,631	11,319	—	1,203	109	—
	面積(km ²)	300	—	268	—	—	32

km、湖岸は109kmでした。海域の清掃面積は268km²で、湖域の清掃面積は32km²でした。

また1人あたりの延べ清掃距離は、海岸は約30.3m、河岸16.0m、湖岸で20.2mでした。

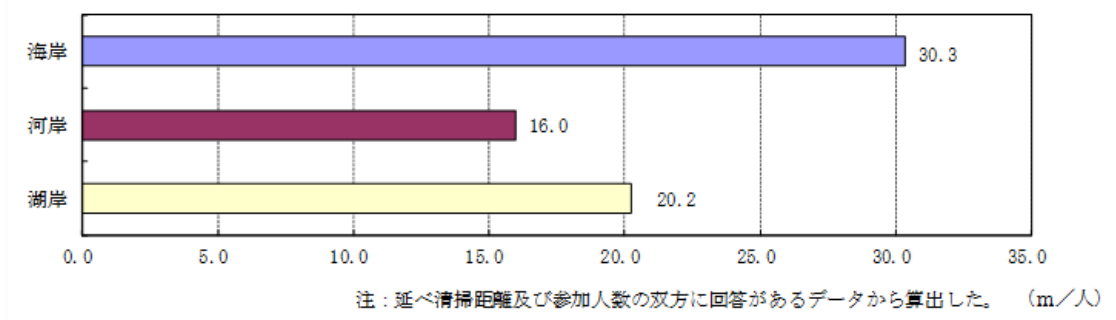


図4 参加者1人あたりの延べ清掃距離

3 参加者の属性

参加者の内訳を図5のとおりです。成人男子が63.5%、成人女子が21.2%、大学生が0.5%、中・高校生が7.7%、小学生以下が7.1%でした。

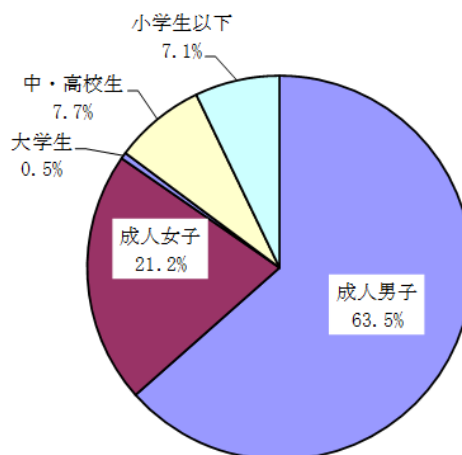


図5 参加者の構成割合

4 主催者と参加者の構成

清掃活動の主催者別割合を図6、参加者別割合を図7に示します。清掃活動の主催者、参加者ともに「地域関係(自治会・子供会・商工会など地域に根差した組織)」の割合が高く、主催者では38.6%、参加者では33.6%を占めていました。また、「行政(国・自治体・外郭団体等)」は主催者で16.4%、「水産関係」は参加者で16.9%を占め、「地域関係」に次いで大きな役割を果たしていました。

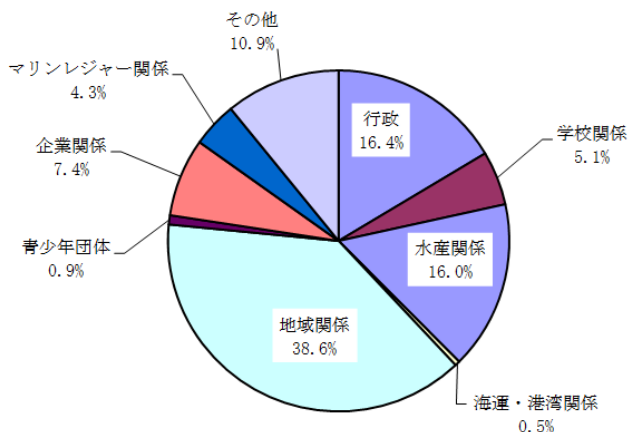


図6 主催者の構成割合

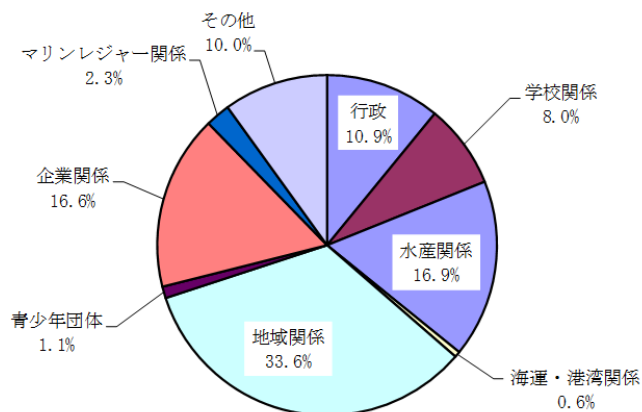


図7 参加者の構成割合

5 ごみ回収状況

(1) ごみの回収量

ごみ回収量と場所別の割合を図8、参加者1人あたりのごみ回収量を図9、1kmあたりのごみ回収量を図10に示しました。ごみの回収量は、全体で約3万7千m³でした。

場所別では海岸が約3万4千m³で最も多く、次いで河岸が約2.8千m³で、この二つで全体の約99%を占めていました。

参加者1人あたりのごみ回収量は、海域が最も多く0.26m³、次いで海岸が0.11m³、最も少なかったのは湖岸の0.03m³でした。

1kmあたりのごみ回収量は、湖岸が最も多く約4.00m³ / kmでした。

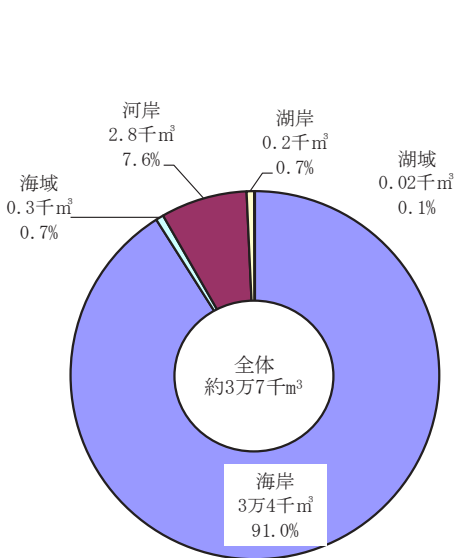


図8 ごみ回収量とその割合
注：各値は四捨五入してあるため、合計はその内訳の合算値と一致しない場合があります。

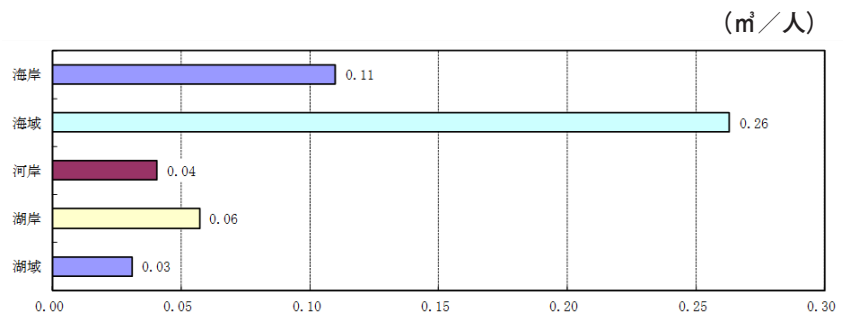


図9 参加者1人あたりのごみ回収量 (m³/人)

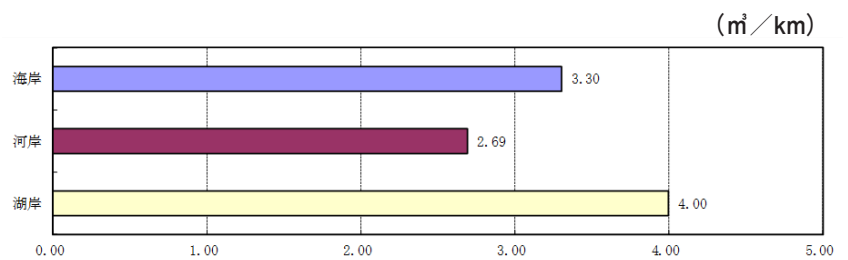


図10 1kmあたりのごみ回収量

令和4年度海浜等の美化活動事例調査報告書(抜粋)

(報告書の全文はホームページに掲載しています)

清掃に参加した組織は、多い順に地域関係(29%)、水産関係(17%)、企業関係(16%)、行政(12%)、学校関係(8%)の順でした。本報告書にはこの他、都道府県別の参加団体一覧や清掃活動中の写真を掲載しています。

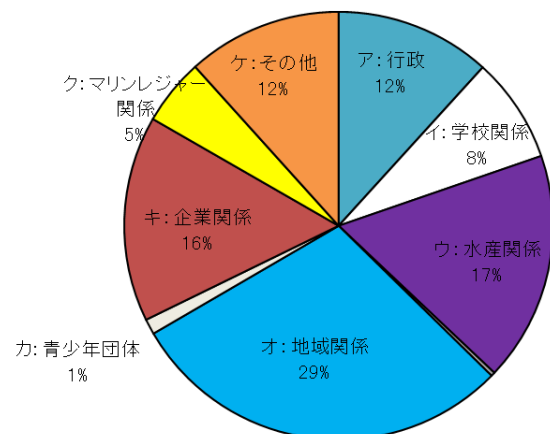


図11 参加した組織の割合

②令和4年度漁民の森づくり活動等調査 抜粋

平成13年度より行っている「漁民の森づくり活動等調査」の令和4年度報告書ができました。報告書の全文はホームページに掲載しています。

<https://www.umitonagisa.or.jp/wp-content/uploads/2023/10/04gyominnomori1005.pdf>

【調査結果の概要】

令和4年度は71ヶ所(中止7ヶ所含む)の活動報告がありました。植樹活動では53種類(針葉樹9種を含む)の樹種が植えられ、森づくり活動への参加人数は延べ4,300人程度、植樹本数は1万4千と、昨年度の4,200人、8千本から参加人数は横ばいであるものの、植樹本数は75%増えました。表1から作業別でみると、植付けと答えた地域は、北海道が6割を占め、「下刈り」は北陸・中部・近畿と九州で6割弱と、漁業関係者が「植付け」後の樹木を大切に扱っている様子が伺えます。また「植付け」の前作業である「地ごしらえ」は「植付け」が多かった北海道で7割を占めました。その他の作業では、消毒、ウッドチップ敷き、鹿防御柵修繕、倒木の撤去、ヨシ帯刈りがありました。

令和4年度もコロナによる活動制限は続いているようですが、昨年度と比較すると、活動数は58ヶ所から64ヶ所に増加しました。樹種数は昨年度の50種とはほぼ同じ53種、参加人数も昨年度の4,200人とほぼ同じ4,300人でした。森づくり活動の場所については報告書巻末の地図及び表をご覧ください。

表1 地域ごとの作業種類の回答数(複数回答)

	植付け	下刈り	地ごしらえ	つる切り	枝打ち	間伐	その他
北海道	24	2	13	0	1	0	0
東北・関東	4	5	1	2	0	0	2
北陸・中部・近畿	5	9	1	1	2	4	3
中国・四国	3	5	1	1	0	0	4
九州	4	8	4	0	1	1	1

1 漁民の森づくり活動で使用された樹種

森づくり活動で使用された樹木53種のうち上位10樹種は図1の通りです。

クスギ(九州地方で9カ所)が12カ所で最も多く、次いでミズナラ(北海道8ヶ所)、ヤマザクラの2樹種がそれぞれ9ヶ所でした。

地域別に使用されている樹種を図2に示します。

北海道ではミズナラが8カ所、アカエゾマツ4カ所、ケヤマハンノキ3カ所、カツラ、ハルニレ2ヶ所、その他16

種類が各1カ所報告されています。東北・関東ではコナラ、ブナ、サクラ、松の4種が各2カ所、その他7種類が各1カ所、北陸・中部・関西ではコナラ3ヶ所、ブナ、ヤマザクラが各2カ所、その他13種類が各1カ所報告され、中国・四国ではクスギ2ヶ所、九州ではクスギ9ヶ所、ヤマザクラ5ヶ所、コナラ3ヶ所が報告されました。植樹された樹種は地域別に、北海道21種、東北・関東11種、北陸・中部・近畿16種、中国・四国6種、九州18種でした。

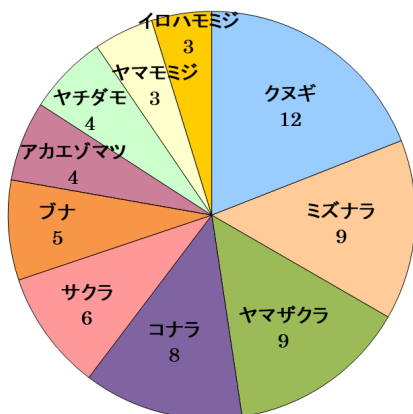


図1 全国の植樹活動で多く使用されている上位10樹種

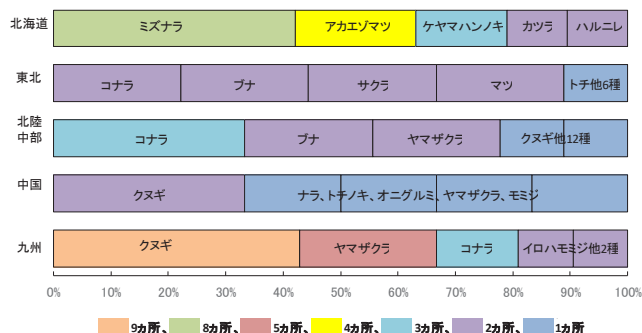


図2 各地方で植樹活動で使用される上位5樹種 (活動数であって、本数ではない)

2 漁民の森づくり参加者が営む漁業種類(複数回答)

図3は漁民の森づくり参加者が営む漁業種類の割合です。

参加者が営む漁業種類では、「定置・建網」が最も多く17%、次いで「刺網・流し網」13%、その他の漁業種類も「採貝」、「採藻」、「貝類養殖」と「藻類養殖」など、いずれも森の恩恵を享受しながら営む漁業種類が多く、その他4%には「内水面漁業」、「まき網」などの回答がありました。漁業種類数で見ると、3種類の漁業種類で取り組んだ活動が3割と最も多い回答でした。



図3 森づくり活動参加者の漁業種類(複数回答)

3 令和5年度以降の漁民の森づくりについて

図4は来年度以降の漁民の森づくりの予定についてです。

注目されたのは「植樹の他、間伐・下刈り等管理にも力を入れていく」の32%、「植樹を積極的に推進する」の31%で、この2つで全体の2/3を占めたことです。1つの回答で30%を超えることはこれまではなく、これに「地拵えを行い、植樹場所を確保・増やす」15%を加えると、全体の8割近くになります。このことから、全国各地で、コロナ開けを見越して、今まで停滞していた活動を活発化させようとする意気込みが感じられます。また、「植樹はほぼ済んだので、下刈り等管理に力を入れていく」15%も、自分たちが植樹した樹木を大切に大きく育てようとする熱意が強く感じられます。「その他」5%の内訳は、「下草刈りのみ定期継続する予定」、「ヨシ帯刈り取り」、「新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら活動を継続していく」といった回答がありました。なお、「中止」は、「大雨により土壌が流され壊滅的な被害を受け苗木の殆どが枯れてしまった」と回答がありました。

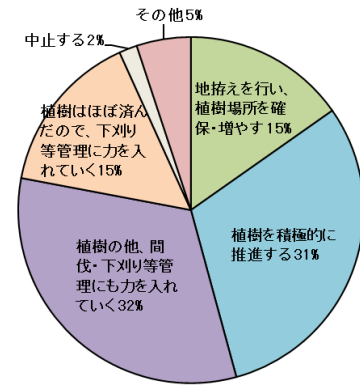


図4 令和5年度以降の漁民の森づくり作業予定について

4 2019年度から創設された森林環境譲与税の活用について

「オ 漁民の森づくり活動に森林環境譲与税の活用を考えていない」と、「カ 森林環境譲与税という制度を知らないなので、今後検討する」がそれぞれ40%弱を占め、地方自治体の水産部局においては、森林環境譲与税の実態又はその制度の中身が十分に周知されていないことが分かりました。活動資金に困っている組織や漁業者グループは多くあるので、このような貴重な財源を上手に活用し、森づくり活動の拡大又は新規発掘につなげていくことは、とても大切なことです。「その他」5%では、「実施場所を調整頂いている行政や森林組合に今後活用の相談をしていきたい」、「紀の国森づくり基金を活用している」という回答がありました。

表2 2019年度から創設された森林環境譲与税の活用について

ア	漁民の森づくり活動に森林環境譲与税を活用している	10%
イ	漁民の森づくり活動に森林環境譲与税の活用を要望している	0%
ウ	漁民の森づくり活動に森林環境譲与税の活用を申請したが不採択であった	0%
エ	漁民の森づくり活動に森林環境譲与税の活用を検討している	10%
オ	漁民の森づくり活動に森林環境譲与税の活用を考えていない	37%
カ	森林環境譲与税という制度を知らないなので、今後検討する	38%
キ	その他	5%

5 主催者と費用負担について

漁民の森づくり活動の主催者を「漁業関係者」、「その他」、「漁業関係者とその他の合同」に分けて集計したところ、「漁業関係者」55%、「その他」32%、「漁業関係者とその他の合同」13%となり、全体の7割近い活動は漁業関係者が主催又は共催していました。（回答数78ヶ所）

費用負担者を「行政」、「漁連・漁協」、「その他（自己負担又は民間支援）」で集計した結果では、行政は2割、漁連・漁協は6割、その他（自己負担又は民間支援）は5割が活動費用を負担していました。行政、漁連・漁協、その他（自己負担又は民間支援）の3者の全てが費用負担者となっている活動は全体の4%、1者の費用負担による活動は73%でした。

（回答数51ヶ所）金額では、行政が2割、漁連・漁協が3割、その他（自己負担又は民間支援）が5割程度負担していました。

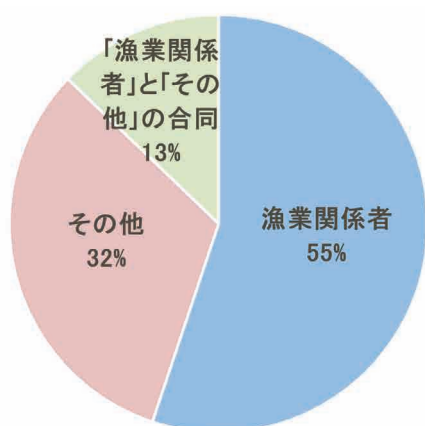


図6 主催者の区分割合

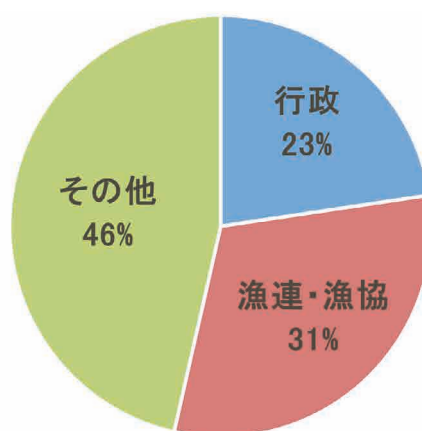


図7 費用負担金額の割合

コラム

令和5年度になって出張に行く機会が増えました。修学旅行や外国人観光客の御一行にもよく会います。新幹線や飛行機はいつも満席です。人と物が動けば景気も良くなるから仕方ないかと思いつつ隣の人に当たらないように座っています。

現地に行く仕事以外のことも聞くこともあります。関西地区では野球の日本シリーズの話題が多くありました。

これからも移動制限がかからない日常であってほしいと願います。

以下、出張先で取った写真です。 (福田)



明け方の瀬戸内海



輪島の千枚田



水揚げ風景

3. 令和5年度 海と渚クリーンアップ活動（海浜清掃活動）報告

未来に残したい、美しい浜辺・青い海

*全国から集まった海浜清掃活動報告の一部をご紹介します。
<https://www.umitonagisa.or.jp/html/houkoku/>

皆さまからの海の羽根募金による寄付や会費に加え、日本財団からの助成金で「海と渚の環境美化運動」の全国的な展開を推進するための清掃資材（ゴミ袋）を、漁協、地方自治体、NPO等に配布いたしています。5年間の配布実績は下表のとおりです。コロナ過で活動数が減っているとはいえ、活動している団体は多く、これらの活動グループからの報告が逐次当機構に寄せられています。活動報告はホームページ、ツイッターに掲載しています。また、ハッシュタグを付けて地元の方、海外の方にも容易に見つけていただけるようにしました。ぜひホームページ、ツイッターでご覧ください。

Twitter <https://twitter.com/umitonagisa>

【清掃資材（ゴミ袋）配布実績】

（単位：万枚）

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	大	小	大	小	大	小	大	小	大	小
自然物ゴミ袋	31(7.5)	0.7	23.6	0.7	18.5(11)	1.9	21.6(10)	2.6	21.1(10)	0.8
人工物ゴミ袋	20	0.8	15.8	1.9	15.5(11)	0.5	16.2	2.3	15.6(10)	0.9
計	51(7.5)	1.5	39.4	2.6	34.0(22)	2.4	37.8(10)	4.9	36.7(20)	1.7

注：（ ）内の数字はJFマリンバンク、全国共済水産業協同組合連合会からの提供枚数です。
 平成30年度以降は小20L相当のゴミ袋も作成し、4種類のゴミ袋を配布しました。大はこれまでと同じ大きさのゴミ袋

北海道

苫前町役場住民生活課

令和5年6月8日

活動場所 苫前町海岸一円

参加者 118名

ゴミの量 自然物ゴミ 約500袋
 人工物ゴミ 約500袋
 ゴミの総重量 2,995kg
 （一般ゴミ 1,575kg 破
 砕ゴミ155kg 粗大ゴミ
 1,250kg 危険ゴミ 15kg）

コメント 苫前町では毎年6月上旬に町内会や各団体、企業など多くの町民の方々にご協力をいただいて町内海岸のゴミ拾いを実施しております。例年新型コロナウイルスの影響で開催が遅れておりましたが、今年度は影響なく涼しい時期に開催することができてよかったです。



新星マリン漁協

令和5年7月11日

活動場所 鬼鹿地区ツインビーチ付近

参加者 44名

ゴミの量 人工物ゴミ 150袋

コメント 一見ゴミが少なく見えても、近くによればゴミだらけであった。ゴミのほとんどは漂着物で、深く砂に埋まった回収できないものも多かった。



秋田県

三種町

令和5年7月4日

活動場所 釜谷浜海岸

参加者 200名

【三種町、三種町商工会、三種町観光協会、三種町八竜漁業協同組合、釜谷浜海水浴場売店組合、三種町八竜支部民生児童委員協議会等】

ゴミの量 自然物ゴミ 200袋
 人工物ゴミ 90袋

コメント 例年より漂着ゴミの総量が少なかったように感じる。例年であれば、大きな漁網などの漁業の廃棄物の漂着が多かったが、今年は流木の数が多かった。



■ 茨城県

とうかい環境村民会議 自然共生社会部会

令和5年4月22日

活動場所 豊岡海岸

参加者 112名

【とうかい環境村民会議
他、団体:環境保全関係団
体5,自治会2,事業所4,東
海村】

ごみの量 自然物ごみ 約120袋
人工物ごみ 約80袋
その他 廃タイヤ、家具、
機械の破片、ポリタンク等

コメント

- ・プラスチックごみでは、特にペットボトルが多かった。
- ・今回で2回目の活動だったが、今後も継続して活動する必要があると感じた。
- ・きれいな海岸にしておけば、ごみを捨てようとする人もいなくなるのではないかな。



■ 東京都

八丈島漁協女性部

令和5年8月10日

活動場所 垂土

参加者 10名

ごみの量 自然物ごみ 5袋
人工物ごみ 3袋
その他 3袋

コメント また海に廃棄物を捨てる人がいるのが悲しい。以前は電化製品も捨てる人が多かったけど、今は禁止になっているため、ないからそれだけ浜が綺麗に見える。



■ 神奈川県

小坪漁業協同組合

令和5年5月10日

活動場所 小坪漁港内浜小屋周辺、
岸壁、組合事務所周辺

参加者 40名

ごみの量 自然物ごみ 30袋
人工物ごみ 10袋

コメント 組合員が一同に会し、共同作業を行うよい機会となった。



■ 新潟県

新潟県漁業協同組合連合会

令和5年6月21日

活動場所 寺泊港周辺、寺泊中央
海水浴場他、新潟市北
区太夫浜海岸1km

参加者 110名

【太夫浜小学校3.4年生、
ボランティア、太夫浜地区
婦人会、新潟漁協南浜
支所】

ごみの量 自然物ごみ 95袋
人工物ごみ 130袋
その他 流木など

コメント 開始前、太夫浜地区番屋前で全体集会を行い、学校側、新潟漁協南浜支所から注意事項など説明があり、班ごとにわかれてゴミ回収作業を行った。今回も、マリニピア日本海から解説員を派遣して頂きマイクロプラスチックについて、説明があり小さなプラスチックごみも拾いました。



粟島クリーンアップ作成 実行委員会

令和5年6月18日

活動場所 簇崎、茂崎

参加者 219名

【粟島浦村,粟島浦村議

会,TeNYテレビ新潟,村上地域振興局,粟島浦漁業協同組合(有)粟島定置,漁業研究会つり舟会,粟島観光協会,粟島旅館組合,粟島汽船(株),(株)福田組,(株)高建,(株)アクティオ,内浦地区,釜谷地区】

ごみの量 人工物ごみ 5.5t

コメント

- ・「世界の海」をキレイにできた。
- ・思ったよりゴミが少なかった。
- ・ハングルや中国語で書かれたゴミがとても多いです。
- ・この活動はこれからも継続して欲しい。



■ 福井県

北潟漁業協同組合

令和5年6月4日

令和5年7月9日

活動場所 ①あわら市浜坂海岸～
北潟海岸
②あわら市城海岸あわら
市波松海岸～城新田
海岸

参加者 ①71名 ②23名 115名
計209名

ごみの量 自然物ごみ 240袋
人工物ごみ 150袋
その他 ウキなど車庫半分

コメント 浜坂海岸～北潟海岸は企業や団体の参加はあるものの、その数はわずかで、大々的に清掃活動を推進できなかった。このため海岸道路まで距離や段差があるところは手つかずのまま取り残されています。来年こそはきれいな砂浜を取り戻したいものです。



若狭三方漁業協同組合

令和5年 6月4日

活動場所 常神半島海岸線

参加者 138名

ごみの量 自然物ごみ 1100袋
人工物ごみ 500袋
その他 流木、藻類、ロープ等

コメント 今年海藻が繁殖しておらず、海藻類のゴミが例年よりも少なかった。

但し、プラスチックゴミが多く、特に発泡スチロールが多かった。

**静岡県****浜名湖ネイチャーズ**

令和5年10月22日

活動場所 弁天島海浜公園 いかり瀬

参加者 28名

ごみの量 自然物ごみ 9kg
人工物ごみ 10kg

コメント ・マイクロプラスチックが多くびっくりした ・マイクロプラスチックの『白』が拾いにくい ・複数人だと活動しやすい ・ごみ袋の補助があり、思い切り拾えた ・政治家の方にも参加してもらいたい

**徳島県****椿泊漁業協同組合女性部**

①令和5年5月27日

②令和5年9月2日

活動場所 椿泊漁港

参加者 2日で延べ120名

ごみの量 自然物ごみ 40袋
人工物ごみ 20袋

コメント 毎年5月30日のごみゼロの日あたりに、椿泊漁協女性部が中心と海岸付近の清掃を実施しています。9

月は町のお祭りがあり、漁協女性部と椿泊婦人会が協力し、町清掃と併せて海岸付近の清掃を実施しました。

**大津漁業協同組合**

令和5年6月18日

活動場所 大津町矢倉

参加者 25名

ごみの量 自然物ごみ 48袋
人工物ごみ 6袋

コメント 清掃作業数日前に雨が降って少しゴミが流されている感じ。地元の川を綺麗な状態で維持したい。毎年清掃実施したいと思います。

**愛媛県****内海中学校**

令和5年7月31日

活動場所 須ノ川海岸

参加者 14名

ごみの量 自然物ごみ 20袋
人工物ごみ 10袋

コメント きれいな海を楽しみにしているのに、どうしてゴミを捨てるのだろうか?ゴミは海の生き物にも悪影響があるのに、海の生き物が可哀想だ。今年度で閉校してしまう前に、何か自分たちでできることはないだろうか?

**南宇和ライオンズクラブ**

令和5年9月30日

活動場所 成啓海岸

参加者 100名

ごみの量 自然物ごみ 400袋
人工物ごみ 400袋

コメント 海岸のごみを除去することで、目的である愛南町の美しい自然と希

少生物を守っていく活動ができ、大変有意義な時間であった。

**福岡県****国土交通省****筑後川河川事務所**

令和5年8月17日

活動場所 佐賀県側:大詫間海岸(大詫間漁港)、福岡県側:筑後川・矢部川の河口漁港(大川市、柳川市、みやま市)

参加者 総勢269名(当事務所から参加依頼した行政関係機関を含む)【佐賀県側 91名、福岡県側 178名*福岡県内の参加者数は福岡県に報告済み】

ごみの量 自然物ごみ 118袋(佐賀県側26袋、福岡県側92袋)
人工物ごみ 78袋(佐賀県側30袋、福岡県側48袋)*福岡県側のごみ量は福岡県に報告済み

コメント 筑後川・矢部川を管理する当事務所では、毎年流域自治体等へ当活動への参加を呼びかけ、河川の河口付近漁港にて漁協主催の清掃活動に参加しています。河川から流れるゴミが少しでも減少出来ればと考えているところです。

**佐賀県****株式会社 サガテレビ**

令和5年10月21日

活動場所 東与賀海岸(干潟よか公園前面の海岸)

参加者 約800名

ごみの量 自然物ごみ 約1100袋

人工物ごみ 約200袋
(115kg)

コメント

- ・天気も最高で、風が気持ちよくごみ拾いのできたのですがすがすがしい気持ちになった。また来年もぜひ参加したい。
- ・ごみ袋5袋ぐらい拾った。来年も行く。
- ・大変だけどきれいになるならそれでいい。きれいになるから嬉しかったね



佐賀玄海漁業協同組合

令和5年7月6日、7日、8日、9日、12日、14日、16日、22日、29日、8月5日、6日、17日

活動場所 玄海沿岸域海浜

参加者 延べ397名

ごみの量 自然物ごみ 715袋
人工物ごみ 320袋

コメント 廃棄物の除去・回収処理を業者が行い、漁場の環境保全の一助となった。



■ 熊本県

津奈木町役場他

① 令和5年7月17日

② 令和5年8月19日

③ 令和5年8月20日

④ 令和5年9月23日

活動場所 津奈木干拓・三ツ島海水浴場

参加者 400名

【B&G津奈木海洋クラブ、津奈木町活性化推進委員会、不知火海区漁業士会、津奈木町商工会、津奈木町ボランティア連絡協議会】

ごみの量 自然物ごみ 500袋
(300kg)
人工物ごみ 500袋
(400kg)
計1,000袋(775kg)

コメント 恒例となっているこの海の日清掃活動であるが、本年度は雨天により中止した。しかし町内の海浜の環境美化に努めるため、海洋クラブ員や漁業者で構成される不知火海区漁業士会及び津奈木町ボランティア連絡協議会をはじめ各種団体の協力体制により、清掃活動を実施し海岸周辺がきれいになった。ゴミ袋の提供は、今後も活動を継続し海を綺麗にするためにも必須資材であるため、引き続き来年もお願いしたい。



■ 宮崎県

北浦内水面漁業協同組合

令和5年7月23日

活動場所 下塚、歌糸、市尾内大井、梅木地区(内水面)

参加者 延べ174人

【三川内小学校、北浦内水面漁業協同組合、三川内公民館長会、三川内地区社会福祉協議会、宮崎県延岡土木事務所、延岡市役所水産課、北浦環境合同会社、延岡市役所北浦総合支所市民サービス課、延岡地区北浦建設協会北浦分会】

ごみの量 人工物ごみ 100袋
(可燃ごみ245kg、不燃ごみ20kg)

コメント 漁業に使用するカニカゴ、トタン、スレート、プラスチック類、農業用資材等の人工ごみを多く回収した。三川内(みかわうち)小中学校の生徒が活動・運営に積極的に関わってくれています。北浦内水面漁協のInstagramにも写真をたくさん上げているので是非ご覧ください。



あ と が き

海浜清掃活動の報告(11ページ)で愛媛県愛南町の内海中学校が今年度で閉校すると書いてありました。この学校の毎年の清掃活動報告には中学校目線のコメントが書いてありました。閉校したらみんな同じ学校に行けるのだろうかと思

配です。新しい学校に行っても清掃活動を続けてほしいと思います。この子たちが大人になる頃はプラごみが減っている海になるよう、海浜美化の普及に努めていきますので、ご支援ご協力よろしくお願いします。(福田)

